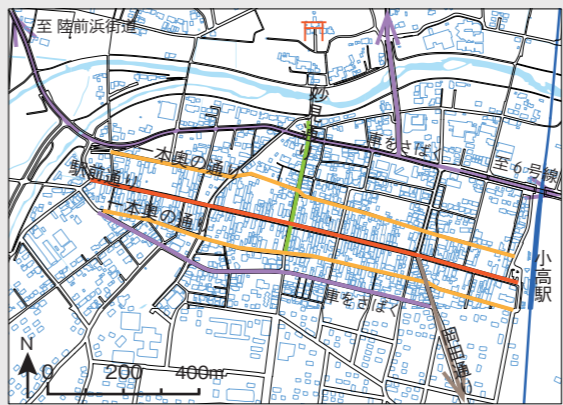


まちなかの通りのいろいろ

まちなかでは、様々な通りが時代とともに形成され、その空間構成や景観、沿道の使われ方は通りごとに異なり、まちなかの多様な街路空間を生み出しています。

街路によって車と歩行者の動線が緩やかに棲み分けられ、利便性と快適性が保たれています。これらの特徴を活かしていきましょう。



駅前通り

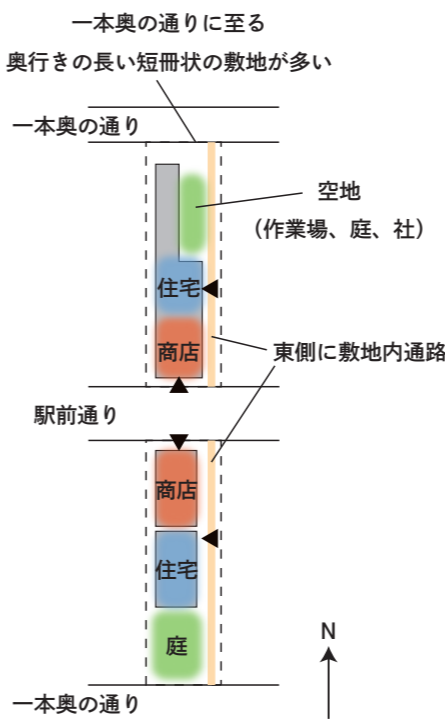
小高のまちなかは、駅前通りを中心に形成されてきました。

【被災後の様子】

被災後は、駅前すぐの小高ワーカーズベース、アンテナショップ希来などが活動の拠点となつています。通りには、鉢植えの鮮やかな花々が見られます。

【街路空間の方針】

来訪者をもてなす小高の顔となる空間として、通りから順に、

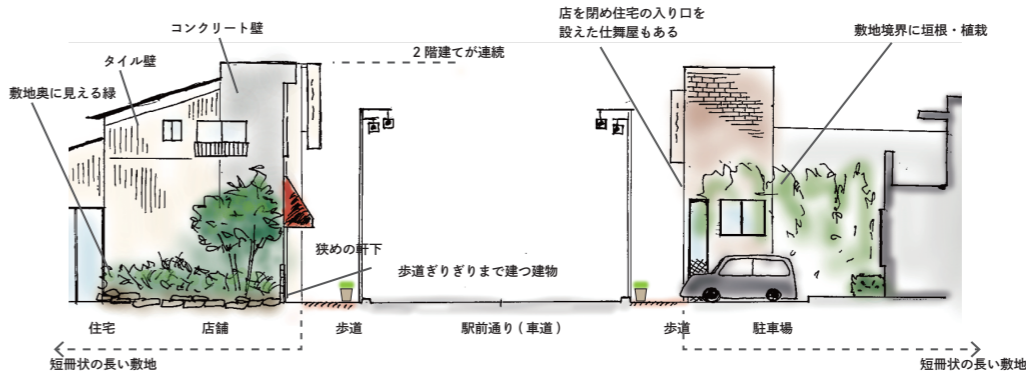


▲店の外観
：建物は二階建てが多いため屋根が連続した線をつくります。

商店+住宅（+蔵）という今ある風景を基本に賑わい・交流の空間とします。

二階建ての連続した高さライン、背景となっている阿武隈高地への眺望を守っていきます。また、広めの歩道を生かし、鉢植えなどを用いて花や緑の豊かな歩行空間を形成します。

0 2 4 6m



▼典型的な駅前通りの風景

妙見通り

浜通りから小高神社に向かう参道として、古くは栄えていました。かつては通りの入り口に石の鳥居がありました。

【沿道敷地・建物】

駅前通りに面する一枚の街区は、妙見通り側が裏になっています。他の部分は通りの両側が表となつていますが、東西で性格が異なります。東側は複合的な利用が多いことに対して、西側は純粋住宅が多くなっています。

また小公園や駐車場など、空いた土地が所々に見られます。住宅は門や塀で囲われていることが多いです。



- ▲△ 商店入り口 メイン/サブ
- ▲△ 住宅入り口 メイン/サブ
- P 駐車場
- ↑ 門扉
- 塀
- ⊙ 損傷/危険箇所

▲妙見通りの調査
：被災後に調査を実施しましたが、商店や工場の再開に向けた動きや、休日に戻ってきている住民が所々に見られます。



▲作業場+住宅
：東側は裏通りが近く、細長い敷地での商店（作業場）+住宅が多く見られます。

▲沿道・通りの先の豊かな緑
：公園・広場や住宅による沿道の緑、道の先にある神社の緑が、風景として印象的です。

【街路空間の方針】
小高神社の参道空間として、沿道景観を形成していきます。日常的にも、祭りの際にも利用されるようなオープンスペースを整備していきます。

一本奥の通り

駅前通りに近い側は、作業場や空地、蔵や倉庫のシャッターが多く裏の空間となつています。反対側は、店や住宅が通りに面して表となつています。

沿道に溢れる住宅・空地部分の緑や、通りの狭さや曲がり、他の通りとは異なる雰囲気を作り出しています。

岡田通り

まちなかの拡大に従って、岡田通りを中心に、南東方向へと住宅地が広がっていきました。敷地は細かく割れていて、通りに対して不整形なものが多く、庭や駐車場、建物の形で対応しています。



▶岡田通りの風景 ▶不整形な敷地

【街路空間の方針】

駅前通りの一本奥の通りについては、ものづくりを支える動線でもありながら、狭い道路幅をいかして住民のプライベートなサービス動線としての機能をもたせるように整備します。特に通りの性格を形成する要素として、沿道の緑などを積極的に守り、落ち着いた雰囲気を生み出していきます。

岡田通りについては、旧浜街道の歴史と広がりのある風景を継承していきます。



▶奥の通りに面する家 (北の一本奥の通り) ▶石蔵・シャッター (南の一本奥の通り)

